

週間市場レポート (2023年1月30日~2月3日)

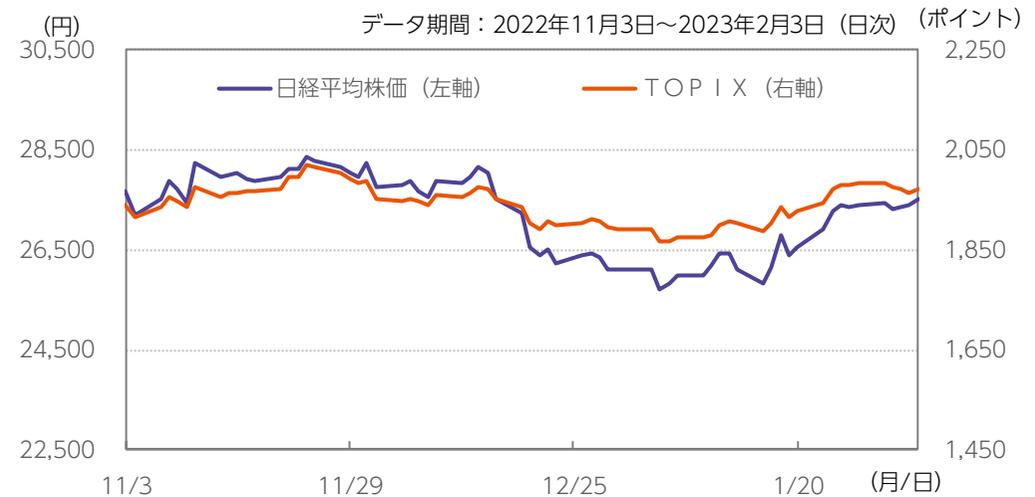
1) 先週の市場動向

| 指数名 | 国 | 前週末 2023/1/27 | 先週末 2023/2/3 | 前週末比 (%) |
|--------------------------------|---|------------------|-----------------|-------------|
| 日経平均株価 (円) | | 27,382.56 | 27,509.46 | 0.46 ↗ |
| TOPIX (東証株価指数) | | 1,982.66 | 1,970.26 | ▲0.63 ↘ |
| ダウ工業株30種平均 (ドル) | | 33,978.08 | 33,926.01 | ▲0.15 ↘ |
| S&P500種指数 | | 4,070.56 | 4,136.48 | 1.62 ↗ |
| ナスダック総合指数 | | 11,621.71 | 12,006.96 | 3.31 ↗ |
| ユーロ・ストックス50指数 | | 4,178.01 | 4,257.98 | 1.91 ↗ |
| S&P/ASX300指数 | | 7,462.25 | 7,525.59 | 0.85 ↗ |
| 上海総合指数 | | - | 3,263.41 | - |
| MSCI AC アジア (除く日本)* | | 871.05 | 859.07 | ▲1.38 ↘ |
| 東証REIT指数 | | 1,857.59 | 1,830.78 | ▲1.44 ↘ |
| FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数 | | 775.72 | 788.14 | 1.60 ↗ |
| ASX300 REIT 指数 | | 1,461.00 | 1,525.10 | 4.39 ↗ |
| グローバルREIT (除く日本)* | | 185.26 | 188.81 | 1.92 ↗ |
| 日本10年国債 (%) | | 0.491 | 0.496 | 0.005 ↗ |
| 米国10年国債 (%) | | 3.504 | 3.525 | 0.021 ↗ |
| ドイツ10年国債 (%) | | 2.239 | 2.193 | ▲0.046 ↘ |
| 英国10年国債 (%) | | 3.323 | 3.055 | ▲0.268 ↘ |
| ドル/円 | | 129.88 | 131.19 | 1.01 ↗ |
| ユーロ/円 | | 141.15 | 141.62 | 0.33 ↗ |
| 英ポンド/円 | | 160.90 | 158.16 | ▲1.71 ↘ |
| 豪ドル/円 | | 92.32 | 90.83 | ▲1.61 ↘ |
| フィラデルフィア半導体指数 | | 2,945.27 | 3,082.11 | 4.65 ↗ |
| WTI原油先物 (ドル) | | 79.68 | 73.39 | ▲7.89 ↘ |
| CRB指数 | | 277.66 | 266.19 | ▲4.13 ↘ |

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。春節（旧正月）連休明けとなった30日の中国・上海市場の上昇が投資家心理の支えとなり、週初はおよそ約1ヵ月半ぶりの高値水準となりました。その後は、米欧の金融政策決定会合を控え次第に様子見ムードが強まる中、米国株式市場が下落した流れを受け、主力株を中心に売られ下落しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅が縮小され、米長期金利が低下するとハイテク株や値がさ株を中心に買われ上昇し、週末は2022年12月16日以来、およそ1ヵ月半ぶりの高値水準となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。 * 2上海総合指数は春節（旧正月）連休中のため、1月21日~1月27日は休場。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。日銀が金融緩和策の修正に動くとの思惑はくすぶるものの、日銀は5年物の共通担保資金供給オペを実施することで長期金利の上昇を抑えていることから、週を通じて日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である+0.5%近辺での推移となりました。FOMCを受け米国の利上げ終了時期が近づいているとの見方から米長期金利が低下したことも、国内金利の低下圧力となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。前週に上昇した反動から利益確定売りに押され週初は7営業日ぶりに下落しました。雇用コスト指数の大幅低下やFOMC後のパウエルFRB議長の会見が想定ほどタカ派（金融引き締め推進派）的ではないとの受け止められ買い安心感が広がったものの、週末は1月の雇用統計で労働市場のひっ迫が確認されると、FRBが早期に利上げを停止するとの期待が後退すると下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。米雇用コスト指数が低下するなど、米国のインフレが鈍化しているとの見方が広がる中、FOMCを通過し、FRBによる早期利上げ停止が意識されると、円買い米ドル売りが進んだものの、週末は1月の米雇用統計で労働市場のひっ迫が確認されると日米金利差縮小を意識した円売り米ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

先週は、欧米の金融政策決定会合などの重要イベントを波乱なく通過したことで、欧米の早期の利上げ停止が意識されたものの、週末に発表された1月の米雇用統計を受け、早期の利上げ停止観測は再び後退しています。

3日（金）に発表された1月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+51.7万人と市場予想（同+19.0万人）大幅に上回り、引き続き労働市場のひっ迫が確認されました。賃金上昇の伸びは鈍化しつつあるものの依然高水準であることから、FRBは当面、利上げを継続していくものと思われます。

今週も国内を中心に、2022年10-12月期の企業決算が発表されます。主要経済指標の発表や、米欧の金融政策決定会合などの重要イベントを通過し、投資家の関心は企業業績へ向かうものと思われます。今週の株式市場は、企業の決算発表や業績見通しなどを材料に、個別銘柄の売買が活発となりそうです。ただし、今週発表される雇用や景況感関連の米経済指標や日銀次期総裁人事をめぐり、上下に振れる場面もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>